

# 枝光教会を訪問しました

教会おじゃまします

伝道委員会と宣教支援センターの共同企画

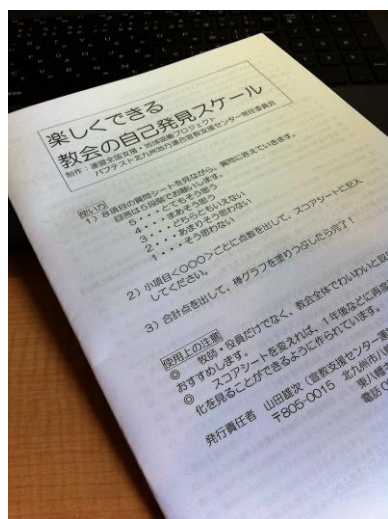
2月18日(木)「教会おじゃましますプロジェクト」の第2回は枝光教会におじゃましました。夜の集会ということで、北欧風のおしゃれな教会看板に明かりが灯され、来会者を迎えました。10教会から42名の参加があり、教会堂は人でいっぱいになりました。

枝光教会の礼拝堂には「あなたがたを休ませてあげよう」「ごゆっくり」という二つの書が掲げられています。岩崎一宏牧師は、ご自身が教会の業としてカルト問題に悩む方々や生活に困窮されている方々と深くかかわり合う中で、キリスト教会が、自宅でも職場でもない第三の「安心できる場所」になる必要を強く感じられて来られたそうです。

8名の枝光教会の信徒の方々が一言ずつコメントをしてくださり、50年にわたり受け継いできた教会の灯を、これからも近隣教会との協力の中で守っていきたいという思いをそれぞれに発表してくださいました。温かいおもてなしを感謝します！



# 「教会の自己発見スケール」まもなく完成します



1月26日(日)センター運営委員会の作業会で、たくさんの方々から出されたご意見をベースにして、「楽しくできる教会の自己発見スケール」の試作版が出来上がりました！

いま、常任委員で手分けをして、最終確認の作業を進めています。完成版は4月29日(金)連合定期総会の日にお配りする予定です。

連合定期総会の日に行われる集会の中で、「教会の自己発見スケール」を体験するためのショートプログラムを準備しています。肩の凝らないプログラムにしたいと考えていますので、どうぞご期待ください。

## 編集後記

まもなく宣教支援センターが発足して1年が経とうとしています。全国支援・地域協働プロジェクトの主体は「教会」です。その意味をご理解いただいて、主事に具体的な課題を分かち合ってください。教会が増えてきていることに、心から感謝をしています。

防府教会、枝光教会に続く、第二段目、第三段目のロケットを打ち上げていきたいと思えます。教会形成のために、宣教支援センターを用いてください。

## 次回予告

巻頭言：連合青年会長 谷本咲太郎兄(南小倉教会)  
おじゃまします報告：企救教会

## 4月・5月の予定

- 4月4日(月) 連合役員会(シオン山)
- 4月7日(木) センター常任委員会(シオン山)
- 4月12日(火) 連合総会資料印刷(高須)
- 4月14日(木) 教会おじゃまします  
～小倉春ヶ丘教会 15時
- 4月29日(金) 連合定期総会  
バプテスト大会(シオン山)
- 5月12日(木)教会おじゃまします  
～八幡教会 19時
- 5月29日(日)センター運営委員会(シオン山)

# 連盟全国支援・地域協働プロジェクト バプテスト北九州地方連合 宣教支援センターニュース 10号

発行責任者：山田雄次  
発行所：〒805-0015  
北九州市八幡東区荒生田 2-1-40  
Tel&Fax：(093)651-6669  
東八幡キリスト教会内  
連合宣教支援センター事務局  
発行日：2016年3月28日



## 苅田教会伝道隊を派遣

宣教60周年感謝礼拝を終えて  
大分で教会の夢を語り合いました  
東八幡教会創立60年記念感謝礼拝報告  
教会おじゃまします 枝光教会  
教会自己発見スケールまもなく完成



神の同労者として 北九州地方連合女性会 会長  
児玉チヅ子(北九州)

主のみ名を賛美いたします。

「わたしたちは神の同労者である。」(1コリント3:9)のみ言葉に立ち、女性会には世界伝道のさまざまな働きがあります。しかし、2015年度役員3人(とアシスタント1名)は、紅葉マークの若葉マーク。すべてにおいて勉強でした。でも和気あいあいとした雰囲気です。

6月8日の若松教会での総会・信徒大会は20教会87名の参加で始まり、8月シオン山教会で小羊会キャンプ、子ども33名の参加。11月のBWA世界祈禱日集会是22教会95名の参加でした。会場教会の方々、連合の各委員会のサポート、齊藤弘司主事のアドバイス、皆様のお祈りとご協力に支えられての1年間でした。この場を借りて心から感謝し、お礼申し上げます。

また6月の女性連合実行委員の研修会で、女性連合が歴史的に北九州と深い関係があることや、先達のダイナミックな福音の働き、人脈に驚き、そしてこのつながりに「今」があることが分かりました。

1988年に始められた「訪問集会」も重要な働きですが、現在は2年に1度の開催になっています。90名ほどの姉妹たちが集まり、共に礼拝し訪問教会へ献げ、講演会などをして続いてきましたが、90名の受け入れの大変さ、新法提言もあり、訪問集会についてこの1年間検討を重ねています。

そんな中、伝道委員会と宣教支援センターの共同企画で、1月から『教会おじゃまします』プロジェクトが始まり、私たち役員も光教会、枝光教会と参加しました。その教会の歴史を知り、また旧知の交流を温めるととても良い機会です。小回りの利く訪問集会で、とても参考になる方法です。

女性会も予算など、祈りながらの活動です。切手代節約のため支援センターの連合配達便に乗せて頂いています。

今年は壮年会の全国大会が北九州で開催されます。2016年度女性会の方針『みことばに立つ ～主の働きをともに進めるために～』を主に祈り、支援していきましょう。



## 苅田教会に伝道隊を派遣しました

年明けに苅田教会から「感謝礼拝のチラシを町内に配りたいのですが、人手が足りません。応援していただけませんか」との要請がありました。

宣教支援センターではチラシ配り伝道

隊の募集を始めるとともに、苅田教会のデザインによるチラシを、3,000部印刷・提供させていただきました。

2月13日(土)派遣当日はあいにくの空模様でした。共に祈り、飯塚・苅田・北九州・高須・東八幡の各教会から集まった24名で手分けをして、2,000枚以上のチラシ配りに出かけました。配っている最中は雨が止むというサプライズもあって、予想以上の成果を上げることができました。労してくださった皆様、茶菓を提供してくださった防府教会の皆様、温かい豚汁を提供してくださった苅田教会女性会の皆様、本当にありがとうございました。伝道隊派遣はこれからも続けます。

## 宣教60周年記念感謝礼拝を終えて

苅田教会では、2月28日に宣教60周年記念感謝礼拝をささげることができました。当日は晴天に恵まれ、49名の方々が集まりました。お祈りを感謝します。

教会の歴史は、1955年2月27日に始まります。最初の礼拝は公民館でささげられました。母教会の富野教会から、菅野救爾牧師、C.L.ホエリー宣教師を迎えて、総勢60名で守られた記録が残っています。1960年に苅田伝道所会堂を献堂。1990年11月に教会組織。日本バプテスト苅田キリスト教会となりました。

説教者としてお招きした井本義孝先生は、1935年のお生まれ。1965年に西南神学部に入學されてから1969年にドイツ留学されるまでの4年間、苅田教会を支えてくださいました。現在は木更津伝道所牧師を務めながら、福祉の分野でご活躍なさっています。

井本先生の宣教題は「主に従って60年」。先生は宣教の中で「昔の苅田は田舎町でした。教会堂に子豚が迷い込んできたこともありました」と語り、笑いを誘いました。そして「福音は全ての人を包んでいます。60年は暦の一巡り。今日から苅田教会の新しい歩みが始まります」と力強く励ましてくださいました。

どんな場所でも、そこに生きる人があれば、福音を必要とする方がおられます。心新たに61年目の伝道と教会形成に励みます。(牧師 佐藤清一)



## 大分で教会の夢を語り合いました

いま教会の定期総会に向けて、新年度の活動計画案づくりに取り組んでおられる教会が多いのではないかと思います。教会の夢や幻を語り合うことは、教会を元気にしていくための手立てのひとつになります。

大分教会では1月24日(日)午後「恵みを語る会」が開かれ、主事として陪席させていただきました。これまで大分教会では1月に「新年幻を語る会」を開いて、1年後・5年後・10年後の教会の姿を語り合ってきました。今年はより実現に近付けていくために、教会に与えられている恵みを語りたい。教会の課題もまた恵みとして語りたいということで、会の名前を変えることにしたのだそうです。3つの班に分かれての討議では、教会を立て上げようとする前向きな意見がいくつも出されていました。それぞれが当事者意識を持ってかかわろうとしている様子に励ましを受けました。

討議の後に、付せんに書かれた意見を執事の担当ごとに振り分けました。模造紙の中間部分に貼られた一枚の付せんに目が留まりました。そこには「牧師が与えられていること」と書いてありました。

教会が与えられた使命を果たしていくためには、他者に出会うこと、他者にかかわることが必要です。語られた恵みの中からどのような新しい動きが生まれてくるか、大分教会のこれからの期待しています。



## 起きて食べよ、道は遠いから ~軒で出会い 軒から始まる物語~

2月21日(日)午後3時半より、東八幡キリスト教会にて創立60周年記念感謝礼拝が行われました。60年の記念に建築されグッドデザイン賞も受賞した新教会堂に、連合諸教会や地域の方々も含め145名が集いました。

礼拝と愛さん会の二部構成ではなく、礼拝の中で愛さんの食事をいただき、主の晩さんを守るというチャレンジをしました。東八幡教会が長年「共に食べる」ということを教会形成の大切な要素としてきたことを表すものでした。一番の山場は、オープンの限界に挑戦して焼き上げられたひとつの大きなパンを、奥田知志牧師・石橋誠一牧師の二人が裂き、8名の配さん者を通して、会衆一同で共にいただくという場面でした。

標題の礼拝テーマは、列王紀上19章のエリヤ物語から取られたものです。意気消沈したエリヤが荒野の木の下で死を待ち望んでいた時、主がパンとことばをもってエリヤを力づけ、再び使命に向けて立ち上がる希望をお与えになりました。



「軒の教会」を与えられた東八幡教会も、傷つき希望を失った人がその軒の下で休み共に食べることで、再び立ち上がる力を備えられるような教会でありたい。軒で出会い、新しい物語を共に紡いでいきたい。一つのパンを会衆一同でいただくことでそのことを確認したひと時でした。新しい教会のかたちを求めての旅はまだ続きます。